

評価基準（案）

参考資料3

令和4年7月1日時点

評価項目		A 優れている (期待を上回る、非常に的確に捉えている)	B やや優れている (期待をやや上回る、妥当である)	C やや劣っている (期待をやや下回る、評価が過大過小 又は記載内容に不足がある)	D 劣っている (期待を下回る、評価が大きく過大過小 又は記載内容に多くの不足がある)
取組 状況	目標実現に資する取組となっているか。	<p>施策における各取組の全てが、各取組成果（中期成果）に寄与する内容で進められていることが明確である。</p> <p>かつ、各取組の成果が、施策の目標や求める成果（長期成果）の達成に向かって<u>いることが明確である。</u></p>	<p>施策における各取組の全てが、各取組成果（中期成果）に寄与する内容で進められていることが明確である。</p> <p>一方で、各取組の成果が、施策の目標や求める成果（長期成果）の達成に向かって<u>いるかについて現時点では明確となっていない。</u></p>	<p>施策における取組のうち一部は、各取組成果（中期成果）に寄与する内容で進められているが現時点では明確ではない。</p>	<p>施策を構成する各取組全体について、各取組成果（中期成果）に寄与する内容で進められているかは現時点では明確ではない。</p>
	市民等のニーズに即した取組となっているか。	<p>各取組の対象を的確に捉え、対象にとって必要な取組となっているかについて、<u>常に社会情勢や対象からの意見、利用状況などを適切に把握した上で内容を検討しながら進めている。</u></p>	<p>各取組の対象を的確に捉え、対象にとって必要な取組となっているかについて、<u>社会情勢や対象からの意見、利用状況などを把握した上で取組を進めようとしているが、把握すべき内容や手法の一部に改善が求められる。</u></p>	<p>各取組の対象を的確に捉えているが、対象にとって必要な取組となっているかについて、<u>社会情勢や対象からの意見、利用状況などを把握すべき内容や手法が大きく不足している。又は、把握しても取組に反映されていない。</u></p>	<p>各取組の対象や、社会情勢や対象からの意見、利用状況などを<u>把握せず</u>に取組を進めている。</p>
	各分野間で必要な連携が図られているか。	<p>各取組成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の実現に向けて、後期基本計画62ページの各取組において示した各関連分野以上<u>に情報共有や連携が効率的に図られており、分野単独のみでは得られない成果に結びついていることが明確である。</u></p>	<p>各取組成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の実現に向けて、後期基本計画62ページの各取組において示した各関連分野において<u>情報共有や連携が図られており、分野単独のみでは得られない成果に結びついていることが明確である。</u></p>	<p>各取組成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の実現に向けて、後期基本計画62ページの各取組において示した各関連分野において<u>情報共有や連携が図られているが、分野単独のみでは得られない成果に結びついていることが現時点では明確でない。</u> <u>又は各関連分野の一部では情報共有や連携が図られているが、現時点では不十分である。</u></p>	<p>各取組成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の実現に向けて、後期基本計画62ページの各取組において示した各関連分野において<u>情報共有や連携が図られていることが明確でない。</u></p>
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	<p>各取組において、可能な限り市の取組を積極的に市民等に発信し、意見やアイデアを募集して施策に反映する、参加・協働を促すなど<u>市民等が関われるように効率的に進められている。</u></p> <p>また、対象となる市民等が積極的に意見やアイデアを発信する、市や他の実施主体と協働していることが明らかである。</p>	<p>各取組において、市の取組が市民等に発信され、意見やアイデアを募集して施策に反映する、参加・協働を促すなど<u>市民等が関われるように図られているが、さらなる情報発信・共有の工夫や参加・協働を促す工夫が考えられる。</u></p> <p>また、対象となる市民等が意見やアイデアを発信する、市や他の実施主体と協働している例もあるが、さらなる参画が可能である。</p>	<p>各取組において、<u>市の取組が市民等に発信されているが</u>、意見やアイデアを募集して施策に反映する、参加・協働を促すなど<u>市民等が関われるように進められてない。</u></p> <p>又は<u>市民等が関われるように進められているが</u>、対象となる市民等が意見やアイデアを発信する、市や他の実施主体と協働しているという状況ではない。</p>	<p>各取組において、<u>市の取組が市民等に発信されておらず</u>、意見やアイデアを募集して施策に反映する、参加・協働を促すなど<u>市民等が関われるように進められていない。</u></p>

評価基準（案）

参考資料3

令和4年7月1日時点

評価項目		A 優れている (期待を上回る、非常に的確に捉えている)	B やや優れている (期待をやや上回る、妥当である)	C やや劣っている (期待をやや下回る、評価が過大過小 又は記載内容に不足がある)	D 劣っている (期待を下回る、評価が大きく過大過小 又は記載内容に多くの不足がある)
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。 (短期及び中期を中心とする)	定量的評価・定性的評価両面において、各事業の成果（短期成果）、中期成果の <u>達成が明確</u> である。 また、施策の成果（長期成果）の <u>早期の達成も見越せる状況</u> である。	定量的評価・定性的評価両面において、各事業の成果（短期成果）、中期成果が <u>達成に近づいていることが明確</u> である。 また、 <u>令和7年(2025)度における施策の成果（長期成果）の達成も見越せる状況</u> である。	定量的評価・定性的評価両面において、各事業の成果（短期成果）が表れているが、中期成果が <u>達成に近づいていることが現時点では明確ではない</u> 。 現時点では、令和7年(2025)度における施策の成果（長期成果）の達成には <u>改善が必要</u> であると考えられる。	定量的評価・定性的評価両面において、各事業の成果（短期成果）が表れていることが <u>現時点では明確ではない</u> 。 現時点では、令和7年(2025)度における施策の成果（長期成果）の達成は <u>難しく、大幅な改善が必要</u> であると考えられる。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	施策の求める令和7(2025)年度の成果の達成に向けた当該年度の状況について、各取組内容や定量的評価、定性的評価などを <u>的確に行い、総合的に勘案して進捗状況を正しく把握している</u> 。 遅れていると判断した場合は、遅れている要因が <u>正しく分析</u> されている。	施策の求める成果の達成に向けた当該年度の状況について、各取組内容や定量的評価、定性的評価などを <u>総合的に勘案して進捗状況を正しく把握している</u> 。 遅れていると判断した場合は、遅れている要因の分析が <u>不十分</u> である。	施策の求める成果の達成に向けた当該年度の状況について、各取組内容や定量的評価、定性的評価などを <u>総合的に勘案して進捗状況が1段階異なる</u> 。 遅れていると判断した場合は、遅れている要因の分析が <u>不十分</u> である。	施策の求める成果の達成に向けた当該年度の状況について、各取組内容や定量的評価、定性的評価などを <u>総合的に勘案して進捗状況が2段階以上異なる</u> 。 遅れていると判断した場合は、遅れている要因の分析が <u>不十分</u> である。
改善	問題や課題が的確に捉えられているか。	取組状況や評価における問題点、遅れている取組の原因を基に、施策の実現に向けて何が求められているかについて <u>短期的な課題と中長期的な課題に分けて正しく過不足なく把握している</u> 。	取組状況や評価における問題点、遅れている取組の原因を基に、施策の実現に向けて何が求められているかについての課題が捉えられているが、 <u>短期的なものの中長期的なもの分類が一部異なる。又は課題の一部過不足が考えられる</u> 。	取組状況や評価における問題点、遅れている取組の原因から課題が示されたことが <u>明確でない。又は他にも多くの課題が考えられる</u> 。	記載されている課題は <u>施策の実現に向けたものと認められない</u> 。
	今後の方向性・進め方は的確か。	方向性（改善策）が課題の解決につながるものであり、取組の成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の達成に結びつくことが <u>明確</u> である。 また、進め方において「補完性の原理」を踏まえた市民自治に基づき、行政や市民等の役割分担を適切に捉えている。	方向性（改善策）が課題の解決につながるものであり、取組の成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の達成に向かうものではあるが、 <u>さらなる改善策を求める</u> 。 又は改善策は左記「優れている」に該当するが、進め方において、「補完性の原理」を踏まえた市民自治に基づき、 <u>行政や市民等の役割分担に変更の余地がある</u> 。	方向性（改善策）が課題の解決につながり、 <u>取組の成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の達成に向かうものであるか現時点では明確でない</u> 。 また、進め方において、「補完性の原理」を踏まえた市民自治に基づき、 <u>行政や市民等の役割分担に変更の余地がある</u> 。	方向性（改善策）が施策の実現に向けたものと認められない。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	評価が一連の流れで理解できるように記載されており、かつ、市民の誰もが理解しやすいよう、専門的な用語は注釈や言い換えなど配慮した上で <u>平易な表現が用いられている</u> 。	評価が一連の流れで理解できるように記載されており、専門的な用語は配慮した上で平易な表現が用いられるよう図られているが、 <u>一部、市民になじみのない用語が記載されているなど表現に工夫が必要</u> である。	評価が一連の流れで理解できるように記載されているが、 <u>市民になじみのない用語が多く記載されており、理解しにくい</u> 。 又は平易な表現が用いられているが、 <u>評価が理解しにくい</u> 。	<u>専門用語が多く、市民にとって理解しにくい表現が用いられ、かつ評価が一連の流れで理解できるように記載されていない</u> 。

評価基準（案）

参考資料 3

令和4年7月1日時点

評価項目		A 優れている (期待を上回る、非常に的確に捉えている)	B やや優れている (期待をやや上回る、妥当である)	C やや劣っている (期待をやや下回る、評価が過大過小 又は記載内容に不足がある)	D 劣っている (期待を下回る、評価が大きく過大過小 又は記載内容に多くの不足がある)
総合 評価	施策の総合評価	現状分析から問題点の把握、課題の抽出、解決策の立案といったP D C Aサイクルの各段階での把握が的確であり、令和7(2025)年度における施策の実現に向けて着実に進んでいることが明確であることに加え、他分野等との連携や市民等との役割分担も適切であり、また、市民等も理解しやすい表記である。	令和7(2025)年度における施策の実現に向けて着実に進んでいることは明確であるが、P D C Aサイクルの各段階での記載内容、他分野等との連携や市民等との役割分担、市民等も理解しやすい表記のいずれかに改善の余地がある。	令和7(2025)年度における施策の実現に向けて着実に進んでいることが明確であるが、P D C Aサイクルの各段階での記載内容、他分野等との連携や市民等との役割分担、市民等も理解しやすい表記のいずれかに大きく改善の余地がある。 又は、令和7(2025)年度における施策の実現に向けてはいっそうの努力が必要である。	P D C Aサイクルの各段階での把握が不十分であり、令和7(2025)年度における施策の実現に向かっていると認められない。さらには他分野等との連携や市民等との役割分担、市民等も理解しやすい表記にも改善の必要がある。